

with コロナのいまだからこそ KIDSセンターが存在する意義がある。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響でKIDSセンターが臨時休館となったのは2020年2月27日。事業を再開したのは4ヶ月後の6月29日でした。以来、一度も臨時休館することなく活動を続けています。そこで、休館から再開までの経緯や現在の活動状況を、KIDSセンター長の日比野直子先生、運営委員の加藤大樹先生、スタッフの宮川仁絵さんにお聞きしました。

感染対策を徹底して、支援活動を再開

KIDSセンターは2015年10月金城学院大学にオープンした子育て支援センターです。主に0～2歳児親子を対象に、地域の親子と学生・教員が関わり、温かくゆるやかなつながりの中で共に育ち合うことを目的に運営されています。多い時は一日80名、平均して60名の親子が訪れるなど、その存在が地域に浸透してきた中での休館。しかし、こんな時だからこそ、親子の居場所としてKIDSセンターが存在する意義がある、というスタッフと運営委員の強い思いのもと、再開に向けての検討が行われました。その結果、必要と思われる感染対策（入場制限・三密を避ける環境設定・消毒作業の徹底等）を講じて支援活動を再開しました。「来館した親子からは、再開

を待っていたという声が多く聞かれ、この場所が親子の心の拠り所になっていたことに感動しました」と宮川さん。当初は見合わせていた子育てセミナーや音楽療法、学生サポーター活動も徐々に再開。コロナ禍であっても支援の充実を試みています。



館内の模様替えや遊具の数を減らすなど、様々な工夫を凝らして親子を迎えています。

KIDSセンター Caféで 子育て支援情報を発信

来館することができない親子にもKIDSセンターの支援を届けたい。そんな思いからHPを活用した情報発信型支援「KIDSセンターCafé」も開設。昨年8月17日より配信を始めました。「制作・おうち遊び」「子育てトピック」「絵本の紹介」などコンテンツも充実。KIDSセンターで体験できる日々の遊びや、スタッフや教員、学生との交わりを感じられるような記事を、

スタッフ・学生・教員が作成し、発信しています。Caféがスタートして1年。「せっかく大学の施設なので、大学の研究の知識や心理学の知識を、お父さん、お母さんにわかりやすくお届けしたいという思いで記事を書いています。スタッフから、お母さんからこんな相談があったと聞くと、それを記事にしてフィードバックするなど、いいサイクルが生まれている」と言うのは、「子育てトピック」担当の加藤先生。「キリスト教行事」や「学生企画」といった金城学院ならではのコンテンツも大事にしているそうです。

▶詳細はHP
「KIDSセンターCafé」を
ご覧ください！



動き出した地域連携の試み

「KIDSセンターはあくまでも一つの社会資源。自治体、保育所など地域の子育て資源がそれぞれの特性を活かしあい、連携をしてこそ、真に地域の子育て家庭を支援できる」と日比野センター長。「だからこそ、単発的ではなく、持続的な連携関係の構築を模索してきた」と続けます。そんな思いが徐々に実を結び、守山区民生子ども課の要請で、2019年9月より区内の主任児童委員研修がKIDSセンターで開かれ、区内各地区の子育て支援について情報交換の時を持てるようになりました。さらに2021年からは、新規にエリア支援保育所となった大森保育園との連携支援の試みとして、「教えて、保育士さん！」企画がKIDSセンターで定期的開催されることに。「子育て世帯を支える地域づくりを」というKIDSセンターの試みはいま、地域を巻き込み、新たな風を吹かせています。

お母さん同士、コロナ禍でおしゃべりはできなくても、「つながっている」と感じ、安心するそうです。



(左から)
日比野直子センター長（現代子ども教育学科教員）、
宮川仁絵さん（開設当時から勤務）、
運営委員の加藤大樹先生（多元心理学教員）





コロナ感染症防止対策のもと、 うんどうかいを開催しました。

10月14日(木)、気持ちの良い秋空の下、今年も無事うんどうかいを行うことができました。園児ひとりにつき参加できる保護者の数を制限したり、競技の時間短縮に努めたり、親子で参加する競技を子どものみに変更したりと、様々な工夫を凝らすことで、おうちの方々と子ども達の成長を喜びあえる行事の一つができ、嬉しく思います。

うんどうかいでは毎年、競技の一部をその年の子ども達の姿を見て、保育者間や子ども達の話し合いで決めています。今年の年長さんはリズムあそびが好きで、クラス活動などで繰り返し楽しんできました。自分の思い通りに身体を動かすことができるようになったことで自信をつけ、力いっぱい身体を使って表現する楽しさを覚えていました。日々の練習でも、より上手くやろうと、子ども同士がお互い意識し合い刺激を受けているようでした。満三歳児と年少さんにとっては初めてのうんどうかい。年中さんは思いっきり身体を動かす楽しさを覚えたところ。うんどうかいは保護者の方々に、我が子だけでなく周りの子ども達との関わりや、それぞれの成長を実感して頂けるまたとない機会となっています。

頼もしい年長さんへの憧れも

うんどうかい等の行事では、年長さんの活躍が際立ちます。クラスの応援席まで誘導してくれたり、分からないことを教えリードしてくれたり、年少児や満三歳児の子達のメダルを作ってくれたり、あらゆる場面で係りとして運営を担ってくれます。特にクラス対抗リレーは子ども達の想いも熱く、盛り上がります。練習でなかなか最下位から抜け出せず、涙する子がいたり、走ることが好きで自由活動の時間も自分達で道具の準備をし、繰り返し走る子の姿があったりと、日々の保育の中でもうんどうかいに対する強い想いを感じら



年長児のリレー

れました。そんな年長児の姿に刺激を受けてか、「私も年長さんになったらリレーのゼッケン作って走るんだ!」と、年中さん。今年の年長さん自身も、去年の年長さんの姿が胸に残っているようで、「もうすぐリレーができる!」と、その日を待ちわびていました。

毎日の保育の中で身体を動かすことの楽しさを味わったり、健康な身体を神様に感謝して過ごすことはできますが、子ども達が強く抱く憧れや期待は、うんどうかいを経験するからこそ得られる感覚なのかもしれません。

つなげていきたい、子ども達の想い

私たちの園では縦割り保育を取り入れています。日頃から生活や遊びを通して縦の関わり合いは多いですが、年齢別の発達に合わせた活動も大切にしています。いつも一緒に遊んでいる優しく頼りになる大好きなお兄ちゃんお姉ちゃん達が、年長児だけのあつまりで見せるかっこいい姿。うんどうかいで披露した縄跳びやリズム、リレーで走る姿は、今年もきっと年下児達の目に心に焼き付いたことでしょう。年上児を通して抱く未来への期待や憧れ、この機会をこれからも大切に守っていきたいと思います。

満三歳児(にじくみ)の応援タイム



年中スペシャル「玉入れ」

年少スペシャル
「おかたづけきょうそう!!」

年長スペシャル「側転」

金城学院高等学校はWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)事業提携校に指定されました。

名古屋大学附属高等学校・名古屋大学教養教育院共催「高大接続探究ゼミ」に本校生徒が参加。

名古屋大学教養教育院に所属する5名の先生方がWWL事業拠点校と連携校の高校1・2年生を対象に、双方向性のある「ゼミナール形式」の授業を開講しました。会期は8月17日から20日までの4日間。本校からは8名の生徒が参加。大学の学びにいち早く接することで、受験勉強とは異なった「探究的な学び」があることを体験しました。また、TA(ティーチングアシスタント)として参加する名古屋大学の学生から名古屋大学の魅力を聞いたり、他校生と交流するなど、貴重な学びの機会を得ることができました。



「考える化学実験」の授業風景

WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)とは

2019年6月、文部科学省は新たな時代に向けた学びの変革、取り組むべき施策の一つとして、文理両方を学ぶ高大接続改革にもとづく「WWLコンソーシアム」の創設を提案しました。Society 5.0の時代に向けて、イノベティブなグローバル人材を育成するため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、高校生国際会議を開催するなど、高校生へ高度な学びを提供する仕組み「AL(アドバンスト・ラーニング)ネットワーク」の形成を目指す取り組みです。

2021年度から名古屋大学教育学部附属中・高等学校がこのWWLコンソーシアム(=ALネットワーク)構築支援事業カ

キュラム開発拠点校に採択されました。同校とは長い交流の歴史がある本校は事業連携校に指定されました。2021年はこれまでも名古屋大学が企画する英語の大学講義「Studium Generale」、「学びの杜・学術コース」や「ALE(Active Learning in English)」を本校の生徒が受講。大学レベルの高度な学びを体験することで、知の探究の楽しさや厳しさにふれるとともに、自身の興味や関心について深く考え、進学や将来のキャリアデザインにつないでいます。また、名古屋大学では2022年度から「基礎セミナー」など、名古屋大学の「正課科目」に連携校の高校生を受け入れ、科目履修生として位置づける予定です。



「自分の声を可視化してみよう」の授業風景

「高大接続探究ゼミ」に参加した生徒たちの声をご紹介します。

参加講座 ・考える化学実験
・時事問題で学ぶファシリテーション



「考える化学実験」では大学の実験器具を使用し、普通の学校の座学とは違う能動的な授業を受けました。思考力やチームワークなど、様々な面でスキルアップにつながったと思います。「時事問題で学ぶファシリテーション」ではコロナの問題を通じ、他校の方と意見交換ができました。コミュニケーション力の必要性を感じ、これからの自らの課題が見つかりました。(2年 R.N.)



参加講座 ・考える化学実験
・Pythonでフラクタルを描画しよう



「考える化学実験」では色についての実験を行いました。色は光でできており、その光は波であるということを自分の目で確かめることができ、感無量でした。「Pythonでフラクタルを描画しよう」では絵を描くプログラムを作成。このイベントを通して化学や情報分野のリアルな姿を体験し、自分の進路を考える良い機会となりました。(2年 Y.M.)

参加講座 ・自分の声を可視化してみよう
・Pythonでフラクタルを描画しよう



私はもともと情報学に興味があり、この講座を選択。大学で行っている授業に近い授業を受けることができ、とても楽しかったです。大学で実際にプログラミングを体験したことで、将来は情報技術を活かせるような仕事がしたいと思うようになりました。(2年 R.T.)

参加講座 ・考える化学実験
・パソコンで"ことば"を調査しよう



このプログラムでは名古屋大学のキャンパスで、他校の生徒とともに大学の講義を受けることができます。自ら考えたり、教わったことを応用する機会が多く、普段の勉強とは違う大学の学びを体験しました。日常生活と学問の関りも実感し、自先のテストや入試のためだけでなく、将来につなげていくための勉強を意識することが必要だと気づきました。(2年 A.W.)

参加講座 ・考える化学実験
・Pythonでフラクタルを描画しよう



ゼミでは中高で習ったことを生かして、自分達で結果を考えたり、実験をしたり。難しい言葉もたくさん出てきましたが、結果がわかったときはとても嬉しかったです。大学へ行くまでにもっとたくさんの知識を身につけて、新たなステージに進みたいです。(2年 N.M.)

「考える化学実験」の授業風景

※Pythonとは、組み込み開発、WEBアプリケーション開発などで利用される、わかりやすく実用的なプログラミング言語です。



できることを考え、楽しもう！ コロナ禍での「恵愛祭」&「体育祭」

今年度の恵愛祭、体育祭は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一般公開は中止に。恵愛祭は校内でできることを企画・実施、体育祭は愛知県体育館で、学年ごとにわかれての開催となりました。

恵愛祭 9/30(木)・10/1(金)

咲かせよう希望の花を～寄り添いの種を蒔いて～

今年は分散登校など制限が多く、クラス発表や部活動も準備にとれる時間が例年の半分になったり、夏休み前から準備していた生徒会企画が感染対策上でできなくなってしまうなど、困難な状況がさまざまにありました。でも、コロナ禍だからやれない、やらないではなく、「感染対策をしっかり行った上で何ができるか」を常に意識して、生徒たちと一緒に企画・準備を進め、恵愛祭当日を迎えました。特に文化部の生徒たちは発表の場が少ない状況にあるので、いきいきと演奏や展示を行っていました。生徒会も2年前に比べ活動の機会が少なくなりましたが、恵愛祭を通して全校生徒と関わって活動したこと、コロナ禍での恵愛祭を作り上げたことで、大きな喜びと達成感を得たことと思います。一般生徒も我慢の中の恵愛祭ではありましたが、楽しそうに各ブースを回っていました。

体育祭 9/22(水)

みんなの心をひとつに、最高の演技を届けよう

昨年は校内で行われた体育祭。今年は2年ぶりに愛知県体育館で行うことができました。新型コロナ感染対策のため各学年に分かれての時差開催となり、例年なら学年ごとのクラス対抗リレーや綱引きなどの競技が行われるのですが、今年はマ스ゲームのみの発表となりました。保護者の方々を

ハンドベル部



管弦楽部



例年、文化部の発表は講堂で観客を入れて行っていたのですが、今年はオンラインでの配信に。

軽音楽部



3年生全体のオリンピック・パラリンピックの企画では万国旗などで雰囲気盛り上げ、各教室の展示も見応えがありました。



コロナ禍ならではの企画「シトラスリボンづくり」。予定していた約200本のリボンがすべてなくなりました。

生徒会
長
ジ

Message

今年の恵愛祭テーマは「咲かせよう希望の花を～寄り添いの種を蒔いて～」。そこには、私たちにとって大きな出来事である「東日本大震災」と「新型コロナウイルスの流行」の2つに伴う差別と偏見について考える時を持ってほしい。そこから自分の意見を持ち、寄り添う気持ち、寄り添いの種を蒔いてほしい、という思いが込められています。種を蒔くことで花が咲く。希望の花を皆さんの心の中に咲かせてください。
(生徒会長 山田佐和)

お招きできないため、クラスごとのマスゲームの映像を撮影し、後日オンラインで配信し、見ていただけるようにしました。さまざまな制限がある中での体育祭でしたが、生徒たちは一生懸命練習に取り組み、本番では素晴らしい演技を見せてくれました。



1年生「金城体操」



2年生「こまの動き」



3年生「創作ダンス」



制限がある中でも
笑顔を決めない生徒たち